



No.81
2016.3.20

SEA NEWS



- ① … 2015年度第3回(公財)埼玉県サッカー協会理事会開催・2016 SFA A級/B級コーチ 受講予定者一覧
- ② … “多様性”を目指しての優勝～レジスタFC、全少初優勝!
- ③ … //
- ④ … “知りたい情報を的確に伝えることで『繋がる』ことができる”～広報委員会座談会～
- ⑤ … ～広報委員会座談会～
- ⑥ … 大会記録●県内大会 1種・2種・3種・4種
- ⑦ … 大会記録●県内大会 4種・女子
- ⑧ … 大会記録●県外大会 4種・少女・フットサル インフォメーション・編集後記

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 雁ヶ音ビル204号室 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

2015年度 第3回(公財)埼玉県サッカー協会理事会開催

1月30日に、理事会が開催され、次年度の事業計画及び収支予算、各種規定の制定及び改正、専門・種別委員長及びミッション特別委員の選任について承認されました。以下、主要事項について。

●事業計画について

関東中学校サッカー大会(8年に一度の持ち回り)が開催されます。これまで2002年ワールドカップの記念事業として開催していた「埼玉国際ジュニアサッカー大会」に変わり、3月に2020年東京オリンピックに向けた「国際親善サッカー大会」(仮称:U-16男子、U-17女子対象)の開催が決まりました。

JFAが開催しているSMC(スポーツマネジャーズカレッジ)サテライト講座が今年度は開催予定です(隔年開催)。また、JFAリスペクト・フェアプレー委員会から通達のあったウェルフェアオフィサー設置に向けた講習会も開催予定です。

●収支予算について

例年並みの3億2936万2031円を予定しています(別途、ウェブサイトに掲載予定)

●細則変更

第2章第3条(理事候補者の選出基準)

評議員会が選任する理事及び監事は、前項第1項(1)(2)(3)に該当する者でなければならない。

- ※ (1) 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第6条1号の規定に該当しない者
- (2) 埼玉県内の公益活動に従事し、その功績が顕著な者
- (3) サッカーに関する理解が顕著な者

●特定個人情報取扱規定及び特定資産取扱規定の制定

●専門・種別委員長及びミッション特別委員の選任

- | | |
|--------------|------------|
| フェアプレー・規律委員長 | 柴崎 康之 |
| 財務委員長 | 小高 達朗 |
| 技術委員長 | 福田 直史 |
| 審判委員長 | 岡田 泉 |
| 広報委員長 | 荒川 裕治 |
| 施設委員長 | 二瓶 省三 |
| 医事委員長 | 関 純 |
| 科学委員長 | 西川 誠太 |
| 総務委員長 | 松本 利春 |
| 1種委員長 | 植松 孝博 (新任) |
| 2種委員長 | 田中龍太郎 (新任) |
| 3種委員長 | 柏 悦郎 |
| 4種委員長 | 東島 雅之 |
| 女子委員長 | 矢嶋 理子 |
| シニア委員長 | 秋谷 仁 (新任) |
| フットサル委員長 | 高橋 昭夫 |

以上、専門委員長が合わせてミッション特別委員として選出されました。

また、審判委員会内に総務部会・指導者部会・強化部会・育成部会・登録普及部会・フットサルビーチサッカー部会・競技部会の設置も承認されました。

●功労賞推薦

- ・鶴岡 明 (医事委員会推薦)
- ・塩野 潔 (医事委員会推薦)
- ・馬場 典成 (4種委員会推薦)
- ・筑井 信夫 (女子委員会推薦)
- ・深澤 晴男 (西部地域協議会推薦)
- ・桜澤 克幸 (北部地域協議会推薦)
- ・レジスタFC (全日本少年サッカー大会優勝)
- ・浦和レッドダイヤモンドユース (Jユースカップ優勝)



昨年の国体関東ブロック大会より

2016 SFA A級/B級コーチ 受講予定者一覧

各選考を経て、下記の皆さんが埼玉を代表して受講することになりました。

- A級 大野 恭平 (大宮南高校)
- 下山 薫 (浦和レッズレディースユース)
- B級 小林 学 (浦和西高校)
- 柳原 貴好 (大東文化大学)
- 石川 崇裕 (クーバーコーチング)
- 守田 亮 (小川高校)
- 大野 隆志 (成徳深谷高校)
- 柏 剛史 (浦和東高校)
- 福島 巖 (越ヶ谷高校)
- 山崎 雄一 (上尾かしの木特別支援学校)
- 黒岩 宏明 (西武台高校)
- 川北 博康 (松伏高校)
- 大西 浩人 (志木高校)
- 滝口 陽介 (蓮田松韻高校)
- 稲葉 尚哉 (羽生西中)
- 長 正規 (アスルクラロ八潮)
- 持田紀与美 (東京国際大学・女子) ※ レッズコース
- 田中 靖二 (越谷西中) ※ レッズコース
- 川上 潤也 (若狭スポーツ少年団) ※ レッズコース
- 鈴木 和也 (戸田南スポーツ少年団) ※ レッズコース

“多様性”を目指しての優勝～レジスタFC、全少初優勝！

冬開催となって初の大会となった全日本少年サッカー大会。ここで初優勝を成し遂げたレジスタFCの金杉伸二代表に東島雅之4種委員長が話を聞きました。

昨年、「対応」できずに敗退

東島 今回は本当におめでとうございます。また、ありがとうございました。

金杉 こちらこそ、鹿児島まで来ていただき、ありがとうございました。「どこにいらっしやるかな」と思いながら、試合をしていました(笑)。

東島 さて、このチームは期待していた年代だったのでしょうか？

金杉 今、高校年代で活躍している選手たちを見ても、当時でも全国大会優勝を目指せる選手は揃っていたと思います。今回、全日本少年サッカー大会には3年連続3回目の出場でしたが、これまででこのところ積み重ねたものがあり、チームとしても成長してきたと思います。

今の子どもたちを見ても、そういうことを感じています。昨年度は柏レイソルに負けてベスト4に終わっただけに、今年は「それ以上の成績を」という気持ちを持って、優勝することを現実的に捉えていましたね。

東島 その気持ちが叶っての優勝だったと思いますが、昨年と違う面があればどういふところだったのでしょうか。

金杉 昨年は“多様性”が無かったと思います。レイソルに思っている以上に走られてしまい、対応できませんでした。立て続けに2失点してしまい、1点は返したのですが、逃げ切られてしまったのです。昨年のチームは失点が少なく、各大会では無失点で優勝していたものから、失点慣れしていませんでした。そういうチームですから、点を取られたときのダメージが大きかったですね。

メンタルを切り替えられれば、あの場面でベンチからあれこれ言っても伝わりませんでした。声のかけ方は考えさせられましたね。精神的に落ちなければ、2失点目は防げたでしょうから、0対1からなんとか追いついて同点として延長まで行けば、また変わっていたと思います。こういう積み重ねが、今回の結果に繋がったのではないのでしょうか。

東島 コーチが「こうしよう」と言っていたことが、失点などで予定が狂った場合は子どもたち自身で考えてプレーしなければなりませんね。「個」としての判断力が問われます。

金杉 そう思います。ですから、ウチでは「これがすべてだ」という指導はしていません。「これがいい」「これが悪い」ではなく、繰り返すようになりますが“多様性”なんです。子どもたちがプレーするすべてが正解で、すべてがサッカーですからね。

例えば、ボールを保持することがすべてだ、という考え方もあります。逆に縦に速く、ワイドを徹底して突くという考え方もあります。こちらの考え方は考え方としてあったとしても、相手があるものです。向こうはやってくるのが違いますから、その中で一つでも歯車が狂ったときに、「こうしよう」という狙いは終わ

ってしまうのです。

こちらが繋ぐことも、早くボールを動かすことも、相手に対してどう対応するかということではないでしょうか。相手が縦にパスを積極的に入れてくるのであれば、それに対してどう対応するのか。「だったら、こうしよう」という考えを持つことは大事なことだと思っています。もちろん、リアクションサッカーにはなりすぎない程度にしないとイケません。大会を通じて子どもたちを見ていて、「だったら」ということが、少しずつ考えられるようになったかなと思いましたね。

東島 時期的に変化を感じられるようになったのはいつですか？

金杉 4種選手権の時期だったと思います。毎年、12月頃になると子どもたちと「今、ピッチ上で何が起きている？」というような話ができるようになります。子どもたちと対等ではありませんが、一緒に考えられるようになるんです。ですから、この全少が夏のままだったら、そこまでは行っていなかったかもしれませんね。言えることは、冬になったことで、密度の濃い内容となり、大会になったということです。

東島 やはり子どもたちは、夏から秋にかけて成長するものですね。

金杉 そう思います。みんなで取り組んでいるのは、ハードワークと切り替えの速さです。その上で子どもたちの中から「どうやって勝つか」という会話が出て来るんです。そこで思うのは、今回のチームはこちらが一言言った言葉に対する共通理解度が高かったですね。コーチ陣の中で「今のは伝わったかな？」と思ったことでも、わかってくれていましたからね。

「今年勝てなかったら、申し訳ない」

東島 さて、全少の1次ラウンドの初戦はYF 奈良テソロでしたね。

金杉 奈良には先制点を奪われてしまい、流れが悪かったですね。ハーフタイムに修正点を伝えて、後半に入ってショートコーナーから同点にしました。そんなトレーニングしたことなかったのですが(苦笑)。相手を揺さぶるようなことはしていないですよ。

東島 そうであれば、子どもたちだけの判断だったわけですね。素晴らしいじゃないですか。

金杉 ありがとうございます。結果論ですが、終わってみたら奈良はベスト8に入りました。失点後も硬いまままで負けてしまったら、ドローだったら、1次ラウンドで敗退していたかもしれません。

東島 そう考えると、奈良を相手に苦しんだ分、後の試合ではよかったんですね。ハーフタイムには、どのような話をしたんですか？

金杉 「大丈夫、(点は)取れるから」と。失点した原因の追究はしなかったですね。ただ「いいよ」ばかりでもダメなんですよ。

東島 指導者の言葉は難しいですね。

金杉 伸びるきっかけにもなるし、やる気をなくすきっかけにもなる。そこは紙一重です。言葉は、子どもの性格を見てですね。

東島 褒める言葉のほうが、比重としては大きいのでしょうか。

さて、1次ラウンドは1位で通過して、ベスト16では横浜F・マリノスと対戦しました。先制したので「行けるな」と思ったら追いつかれてしまって。それでも冷静に2点目を奪って逆転しました。

金杉 最初はすごく押されてしまい、それをしのいで先制したので「このまま逃げ切れるか」と思ったら、一瞬集中が切れたところでやられてしまいました。それでもアディショナルタイムにスローインからの流れで得点することができました。

東島 途中、ポストに当たったシュートは惜しかったですね。あれが入っていたらよかったのですが、最後の最後で決めてくれました。

次の柏レイソル戦は、PK戦で決まりましたが、いいプレーも多かったし、守備もよかったですね。



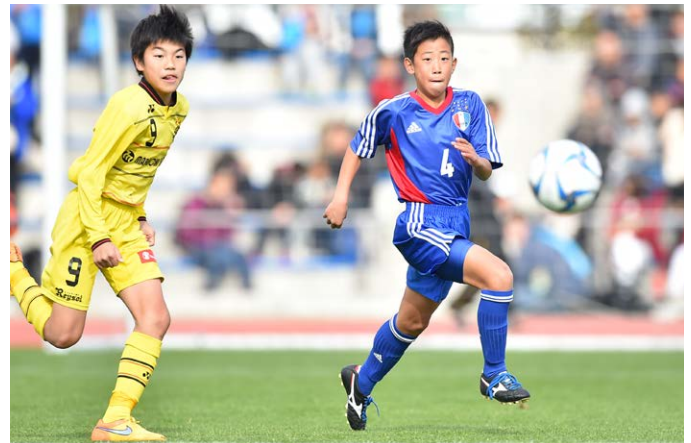
金杉監督(右)と東島委員長(左)



決勝 レジスタFC vs 鹿島アントラーズ



準決勝 レジスタFC vs 兵庫FC



準々決勝 レジスタFC vs 柏レイソル

金杉 レイソルは動いてくるんです。特に後ろの選手が両サイドを追い越して上がっていくんです。これは去年の反省としてわかっていたのですが、先に失点してしまいました。でも、すぐ同点にできたのがよかったですね。シュート数はウチが多かったのですが、結果的に同点からPKでした。

実はこの1年でよく試合をしていたんです。でも負けることが多かったので、子どもたちには「今まで負けて来たんだから、今日は勝つしかないよ」と言って送り出しました。とにかく、厳しい組み合わせでしたね。

東島 ちなみにベスト16には、関東勢は栃木以外全部残ったんですよ。関東のレベルの高さを改めて感じました。

金杉 優勝候補と言われたマリノス、レイソルに勝って抜けたんですが、プレッシャーも大きくなりましたね。元々、埼玉代表というプレッシャーもありましたし、かつ3回連続で代表になりましたから「今年勝てなかったら、申し訳ない」という気持ちもありました（苦笑）。

ベスト4となり、初めて対戦する兵庫FCでしたが、雰囲気というか流れができあがってきたような気がしました。お互い知らないこともあってか、両チームとも良さを出し合えたと思います。早い時間に得点できたので3対0で勝ちましたが、一歩間違えば、逆の結果になっていたかもしれません。

東島 そして、鹿島アントラーズとの決勝ですね。

金杉 決勝は準決勝と対照的に、相手のいいところを消し合うような展開でした。どうしてかということ、1ヵ月に一度はやってい

る相手なので（苦笑）、顔も名前もわかっています。だからウチのエースは、相手のセンターバックにずっと付いて回られたのもできませんでした。

後半に入っても0対0で、お互い動けなくなる中、延長に入ってからPK戦まで行くのかなと思っていたところ、フリーキックをもらったんですね。直接狙ったんですが、ゴール前でゴチャゴチャした中でコースを変えて浮かして先制。子どもたちの発想でしたね。

東島 あれっ何で入ったの？ と思ったゴールでした。

金杉 あのフリーキックのときだけ、ウチのエースへのマークが外れたんです。あのときだけ、空いたんですよ。

東島 センスがあるんですね。

金杉 日頃の積み重ねだと思いますが、常にダイレクトで流し込むようなイメージを伝えていたところ、あのときは「これしかない」というプレーを見せてくれました。結果的に2対0で勝てたのはよかったです。

「変えないと」

東島 レジスタさんは粘り強かった。ちょっとした失点にも動じないし、焦らない。目の前のプレーに集中して球際に厳しく、寄せが早い。周りがよく見えていると思います。

金杉 そういうチームでありたいと思っていますだけですよ。

東島 練習環境の違い、土と人工芝との違いは関係あると思いますか。

金杉 あると思いますね。特にスライディングの技術は土のグラウンドだと身につけられないかもしれません。ただ、意識を持たせることが一番です。

東島 西部地区の決定戦は土のグラウンドなのですが、勝ち上がったチームが決勝大会の芝のグラウンドでいいプレーを見せてくれるのです。「こんなに上手かったっけ？」と思うくらい。もっと芝のグラウンドがあればいいのですが。

金杉 私自身、各年代で選抜チームに選ばれ、毎年のようにヨーロッパへ行っていました。そこで「負けた」と感じたのは、芝の上を滑らすようなキックとスライディングのタイミングと距離でした。芝は常に濡れている状態です。彼らは生まれたときから天然芝の上でプレーしています。このハード面の違いは追いつけないですね。

そこで日本ですが、土のグラウンドで試合をするときには「ボールから目を離すな」と言っています。どんなバウンドをするかわかりませんからね。でも、天然芝や人工芝のときには「ルックアップしよう」「ボールを見ないでプレーしよう」と。天然芝だと勝手にボールが浮いてくれますが、土はそうはいきませんのでわざと「浮かしていいよ」と言うんですよ。

東島 先程の“多様性”ですね。

金杉 そうなんです。グラウンドの状態によって変えないといけません。代表レベルでの試合でも、環境によって変えざるをえないんですから。

そう考えると、埼玉は“多様性”がありますよね。

東島 みんながバスサッカーに向かっていますが、相手によっては臨機応変さが必要ですね。

金杉 埼玉には、それを認めてくれる土壌があります。

東島 例えば、他県の人たちから「あんなサッカーやってもつまらない」と言われるんだけど、でも勝っているのはどちら？ということは何々あります。

金杉 僕らは、各チームの「いいな」を吸収してここまで来ました。「こういうサッカーしないと、こういう選手は生まれない」という話をよく耳にしますが、例えば鹿児島実業はフィジカルの強さで知られていますが、そのチームからポゼッションサッカーを体現できる遠藤保仁（ガンバ大阪）、日本有数のテクニシャンである松井大輔（ジュビロ磐田）が出て来ています。「繋げと言われれば繋ぐけれど、勝つならば『こうでしょ』』というものを持っています。超越できるんです。

東島 どうしても、代表もそうだけれど、指導者は枠や型にはめがたります。そこで“多様性”なんですね。



優勝を決めたレジスタFC

ゴールに向かっていく選手に出て来てほしいと思っています。レジスタの選手たちは前に行っていますからね。選手個人で一番いい選択ができるようになればいいんです。

金杉 11歳、12歳になると適正のポジションが見えてくるんですね。現時点ではスピードのあるなしはありますけどね。今、高校や大学で活躍している子どもたちを見てみると大幅なコンバートしていないですよ。よくやるのが、Jリーグの選手たちの中でなんとく似ている選手の映像を見せて「こんな選手になるといいね」と声をかけたりしています。

東島 イメージできるからいいですね。そういう目標というか、ある選手像を見せて自覚させるというのも一つの方法ですね。

さて、話が長くなりました。改めておめでとうと言わせてください。

金杉 ありがとうございます。ただ、まだ「日本一になった」という実感が無いんです（苦笑）。今年がとりわけよかったという世代でもありませんでした。メディアで紹介していただくたびに「球際」「切り替え」の話をしてきましたが、僕らとしてはそういうことはユニフォームやスパイク、すね当てを用意するのと同じこと、当たり前のこととしているだけなんです。

東島 トレーニングの中でできているということですか。

金杉 常識のレベルを上げられれば「そんな当たり前」という話になるんですよ。だから、僕は上げて行きたいと思っているんです。

東島 埼玉の中でさらになんばってください。

金杉 埼玉の中で切磋琢磨していきたいです。これからもよろしくお願いします。

「知りたい情報を的確に伝えることで『繋がる』ことができる」

～広報委員会座談会～

参加者

荒川 裕 治（広報委員長）

友清 創（委員／埼玉新聞社）

戸 莉 淳（委員／浦和レッズ）

小沼 航 士（委員／大宮アルディージャ）

田口 和 生（次年度委員／大宮アルディージャ）

SNSを始めますか？

荒川 お忙しいところ、お集まりいただき、ありがとうございます。会議の流れからの座談会で慌ただしいのですが、よろしくをお願いします。

今日のテーマは「情報発信」についてというよりも「交流」、もっとSFAを身近に感じていただきたいという趣旨で行いたいと思います。そこで以前から話題に上っているSNSについて、ご意見を伺いたいと思います。

友清 2年前から話題に出っていますが「やらない」という方向でしたよね。

荒川 持ち帰って、ミッション委員会で提案しましたが「もっとしっかりウェブサイトの運営をしてほしい」と意見されました。

今回、また内部に提案しますが、SFAとしてというか、「広報委員会」で始められればいいのではないかと考えています。

戸莉 例えば、子どもたちの父兄に集まっていたら、そこでニーズを引き出したものがFacebook、Twitterということであれば、いいのではないのでしょうか。多分、望まれていると思いますし、父兄の皆さんは様々なサイトにアクセスしています。

ある父兄向けのサッカーのウェブサイトがありますが、主催するイベントに7,000人も集まるんですよ。そのウェブサイトは、サッカーをしている子どもたちではなく、父兄に役に立つサイトを目指しているんですね。こういうものが成立している時代に、SNSをやるかやらないか——やることになるのは時間の問題だ

と思います。

小沼 お子さんが2種から4種のかけての父兄は、とにかく拡散力があります。共通のハッシュタグを入れてもらうだけで、すごいことになると思いますよ。

荒川 #saitamafa とか、#sfa とかを文末に入れてもらうということですね。

小沼 そういうことです。検索も簡単ですから、知らない人同士で交流することができるんです。

友清 後はSFAのウェブサイトはどうリンクさせるかですね。

戸苺 公式記録をアップするには時間がかかるから、SNSは結果だけでいいですね。とにかく、結果をいち早く知りたいわけですから。

荒川 その次の段階として、詳細がわかればいいですね。そこはウェブサイトで確認していただくということにすればいい。

戸苺 ページビューはどのくらいですか？

荒川 60～80万ビューと聞いています。

ウェブサイトの話にちょっと触れますが、トップページで土日の県内のスケジュールがわかるようになるだけでも違うと思っています。

戸苺 プレーヤーが試合に来てくれないのが厳しいですよ。

友清 我々の立場だと大会が多すぎて、すべての試合を観ることができていないですね。

小沼 確かに、試合を追いきれていないですよ。

戸苺 駒場サッカー少年団の頃、よく「見に行け」って言われて、当時の大宮サッカー場にキリンカップなどを観に行ったものですよ。

友清 子どもたちこそ、試合は観たほうがいいですよ。そういう繋がりを作っていききたいですね。レッズ、アルディージャ、そしてSFAが一つに繋がってくれるといいと思います。今はまだバラバラですよ。

荒川 もちろん、レッズとアルディージャだけでなく他のチームともっと繋がる必要性があると考えています。

戸苺 それが埼玉新聞にも繋がるといいですね。

友清 その通りです(笑)。

それぞれの情報発信

友清 レッズ、アルディージャとも、育成部門の試合に関して、どこまで情報発信していますか？

戸苺 メンバーとか、かな。

小沼 うちの場合だと、コーチがメンバーと得点をメールでくれます。

戸苺 アルディージャは全部出ていますね。

小沼 現場のコーチが送ってくれるんですよ。

戸苺 ウチはやっと見やすくなりましたが、そこまではなかなか。

友清 埼玉新聞はピックアップして紹介しています。昔は各方面からFAXをいただいていたのですが、今は少なくなりました。システム化されるといいのですが。



小沼航士氏

小沼 待っている人がいるんですね。

友清 知りたい人がいるんです。

田口 高校時代、埼玉新聞に結果が出たのはうれしかったですよ。今でも掲載されれば、うれしいと思うんですけどね。

友清 出たんですね(笑)。サッカーは種別連盟によって、対応がバラバラです。最近、やっと大学連盟から来るようになりましたが、社会人連盟には、もっと関わっていただきたいと思っています。記録を発表することを徹底するだけで、すごい情報量になりますからね。

荒川 SFA主催大会の情報発信については、財務委員会と連携して整理していきたいと思っています。

メンバー以外への発信

戸苺 あとは「またサッカーをやりたい」という人向けの情報がほしいですね。高校、大学までやっていただけ一度止めて、また始めたくなくなったという人用に。サッカーを楽しむクラブが検索できるようなこと、できませんか？

友清 社会人連盟の情報発信ですよ。県の1部、2部がどうなっているか。

荒川 ならば、市町協会レベルからの情報も含めてですよ。

戸苺 大手の飲食サイトのようにフォーマットがあって、それぞれのチームが入力していくという情報発信ができるといいと思いますね。

どうしても、サッカーをやっている人に、また登録メンバーにフォーカスを当ててしまうのですが、サッカーをやっていない人にやってもらうという考え方も必要だと思います。健康志向もあり、サッカーをやってもらう仕掛けというのは必要だと思います。運動できる場の提供も検討すべきではないでしょうか。



友清創氏

友清 生涯スポーツとしてはマラソンが人気です。東京マラソンに刺激されてか、最近県内でもジョガーが多いですね。

サッカーは11人が揃わないとできないから難しいけどフットサルならば、という声もあります。もっと手軽にできるということをアピールする必要性もあるでしょう。またそこから、11人のサッカーをやろうという話にもなるでしょう。

荒川 サッカーを通じて、コミュニティを作っていくということですね。それが観る人たちが繋がり、父兄たちが繋がり、チームとそこに入りたい人たちが繋がり、そしてサッカーをやったことのない人たちとも「気軽にやろうよ」と繋がる。そういう媒体が必要だということでしょうか。

また、広報委員会が種別を超えるのはもちろん、サッカーファミリー以外の皆さんとの窓口になっていく必要性を改めて感じました。

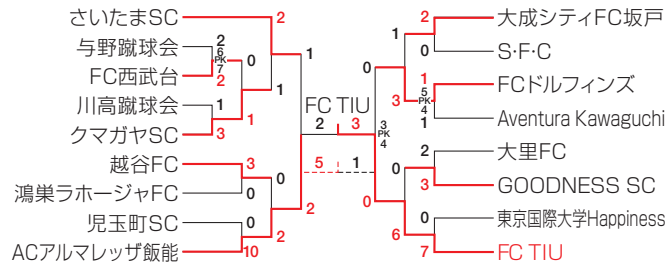
最後になりましたが、小沼さん、ありがとうございました。引き続き、アルディージャは田口さんをお願いしたいと思います。また二年間、よろしく願います。

大会記録 ● 県内大会

1種・社会人

平成28年度彩の国カップ埼玉県サッカー選手権大会 埼玉県社会人サッカー連盟会長杯

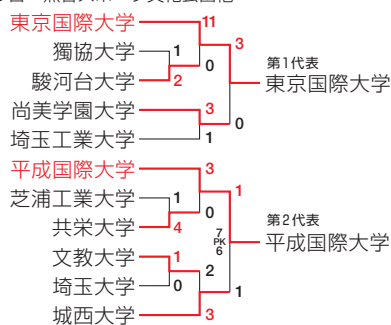
1月10日～3月6日 熊谷スポーツ文化公園他



1種・大学

平成28年度第21回彩の国カップ大学代表決定戦

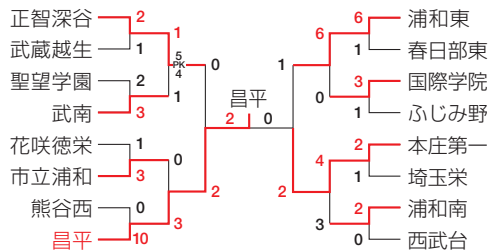
2月21日～3月6日 熊谷スポーツ文化公園他



2種・高校

平成27年度埼玉県高校サッカー新人大会

2月6日～20日 川口青木町公園陸上競技場他



優勝 昌平高校

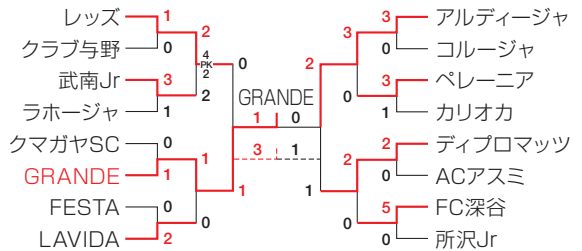


決勝 昌平高校 vs 本庄第一高校

3種・クラブ

第25回埼玉県クラブユース(U-14)サッカー選手権大会

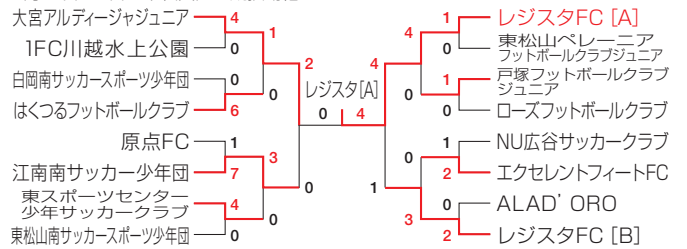
12月12日～1月31日 NTT志木グラウンド他



4種

第10回埼玉県第4種新人戦

2月14日、21日 東松山陸上競技場他



優勝 レジスタ FC [A]



準優勝 大宮アルディージャジュニア



決勝 レジスタ FC [A] vs 大宮アルディージャジュニア

4種・少年団

第44回埼玉県サッカー少年団中央大会

1月17日～2月7日 埼玉スタジアム第2グラウンド他

川越福原SCスポーツ少年団	0	0	浦和尾間木サッカー	5	浦和尾間木サッカー	0	旭サッカースポーツ少年団
大宮東FJCスポーツ少年団	1	0	浦和尾間木	0	浦和尾間木	4	寄居フットボールクラブ
江南南サッカー少年団	3	3	浦和尾間木	2	浦和尾間木	0	上尾NEO FCスポーツ少年団
上尾大石サッカー	1	4	浦和尾間木	1	浦和尾間木	0	新座片山FC
スポーツ少年団	1	2	浦和尾間木	1	浦和尾間木	0	スポーツ少年団 A
新座片山FC	0	3	浦和尾間木	1	浦和尾間木	1	ダイナモ川越東FC A
スポーツ少年団 B	0	2	浦和尾間木	1	浦和尾間木	6	久喜東FC
大里FC・Jr	2	2	浦和尾間木	1	浦和尾間木	0	大沢北FCスポーツ少年団
高階イレブンス	1	1	浦和尾間木	1	浦和尾間木	0	
FC宮代東	2	1	浦和尾間木	1	浦和尾間木	0	

※浦和尾間木サッカー少年団が優勝



優勝 浦和尾間木サッカースポーツ少年団



決勝 浦和尾間木 vs 江南南



準決勝 浦和尾間木 vs 新座片山 FC

準決勝 江南南 vs 大里 FC

4種・少女

第1回埼玉県サッカー4種少女チーム新人大会

2月21日、28日 毛呂山町大類グラウンド

宮原サッカーガールズ	3	0	上福岡サンダース	0	FC熊谷ブレスリオッサ	5	川越女子ジュニアSC
久喜ガールズ	1	0	上福岡サンダース	0	FC熊谷ブレスリオッサ	3	TSガールズ
狭山女子FC	0	0	上福岡サンダース	1	FC熊谷ブレスリオッサ	6	FCなめがわサッカー少年団
大宮日進SSレディース	3	2	SEフィリアFC	2	FC熊谷ブレスリオッサ	1	東大宮エンジェルス
上福岡少年少女K.S.C	0	1	SEフィリアFC	0	FC熊谷ブレスリオッサ	2	熊谷リリース少女SC
戸塚FCガールズ	6	0	SEフィリアFC	4	FC熊谷ブレスリオッサ	1	桶川クイーンズ少女SC
吉川L.キッカーズ	0	0	SEフィリアFC	1	FC熊谷ブレスリオッサ	1	SC和光ベレーザ
FCバレイセイロ毛呂山	0	0	SEフィリアFC	0	FC熊谷ブレスリオッサ	0	吉見エスカーラFC
レディースジュニア	0	0	SEフィリアFC	0	FC熊谷ブレスリオッサ	0	
浦和ラッキーズFC	0	0	SEフィリアFC	0	FC熊谷ブレスリオッサ	0	
SEフィリアFC	10	0	SEフィリアFC	0	FC熊谷ブレスリオッサ	0	

※優勝はSEフィリアFC

女子

平成27年度高校女子サッカー新人戦

1月31日～2月13日 東京国際大学グラウンド他

本庄第一	10	0	久喜	4	入間向陽
浦和実業	0	2	久喜	0	浦和一女
松山女子	0	0	久喜	0	市立浦和
埼玉平成	8	1	久喜	6	山村学園
花咲徳栄	4	4	久喜	8	久喜
熊谷女子	0	4	久喜	0	明の星+大妻嵐山
浦和西	2	1	久喜	0	昌平
川口総合	1	0	久喜	4	南稜

※久喜高校が優勝



優勝 久喜高校



準優勝 花咲徳栄高校



決勝 久喜高校 vs 花咲徳栄高校

第3回埼玉県女子U-14新人戦サッカー大会

1月11日～2月7日 戸田市惣右衛門グラウンド他

FC熊谷ブレスリオッサ	3	0	浦和レッズ	0
戸木南ボンバーズFC	1	0	浦和レッズ	0
十字文ベントスJrユース	0	0	浦和レッズ	0
白岡SCL	3	0	浦和レッズ	0
大宮FC	1	1	浦和レッズ	0
エルフェン埼玉マリ	3	0	浦和レッズ	0
熊谷リリースカサブランカ	0	1	浦和レッズ	0
浦和レッズレディースJrユース	9	1	浦和レッズ	0

※浦和レッズレディースジュニアユースが優勝

大会記録 ● 県外大会

第26回関東選抜少年サッカー大会

2月27・28日 茨城県ひたちなか市総合運動公園

●予選リーグ

順位	B組	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	埼玉県4 TC 選抜	2	1	0	12	4	+8	7
2	千葉県TC U-12ブルー	2	0	1	4	5	-1	6
3	岩手県TC U-12	1	0	2	6	9	-3	3
4	秋田県TC U-12	0	1	2	2	6	-4	1

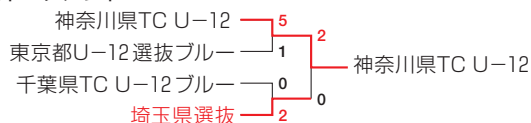
順位	F組	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	埼玉県選抜	2	0	1	12	8	+4	6
2	栃木県TC	2	0	1	11	7	+4	6
3	宮城県選抜	2	0	1	6	4	+2	6
4	千葉県TC U-12ホワイト	0	0	3	3	13	-10	0

●決勝リーグ

順位	2組	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	東京都U-12選抜ブルー	2	0	0	8	1	+7	6
2	埼玉県4 TC 選抜	1	0	1	3	6	-3	3
3	栃木県TC	0	0	2	3	7	-4	0

順位	4組	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	埼玉県選抜	2	0	0	5	2	+3	6
2	茨城県TC U-12	1	0	1	2	2	±0	3
3	横浜TC	0	0	2	1	4	-3	0

●決勝トーナメント



※優勝は神奈川県TC U-12。埼玉県選抜は準優勝、埼玉県4 TC選抜は5位。

4種・少女

少女サッカー都県チーム関東・東北交流大会2015

1月16日、17日 吉見町ふれあい広場陸上競技場

●予選リーグ

順位	Aブロック	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	埼玉パロミーナ ホワイト	4	0	0	16	0	+16	12
2	Fairys F.C	2	1	1	6	5	+1	7
3	神奈川ユナイテッド	1	2	1	5	2	+3	5
4	福島県選抜	1	1	2	1	5	-4	4
5	群馬県トレセン女子U12	0	0	4	0	16	-16	0

順位	Bブロック	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	茨城tiara U-12	4	0	0	15	2	+13	12
2	千葉ユナイテッド	1	2	1	5	7	-2	5
3	武田消毒ジェイドFC	1	2	1	5	7	-2	5
4	埼玉パロミーナ レッド	1	0	3	1	8	-7	3
5	FCサリスタ秋田レディース	0	2	2	3	5	-2	2

●順位決定戦

優勝決定戦 埼玉ホワイト 0-0 茨城 (2PK1)

7、8位決定戦 福島 3-2 埼玉レッド

※埼玉県選抜は2年ぶり10回目の優勝

フットサル

第21回全日本フットサル選手権大会関東大会

1月30日、31日 駒沢オリンピック公園総合運動場体育館他

1回戦 烏天狗インペリオ浦和FC 1-6 三栄不動産FC宇都宮

※優勝はコロナFC権田

2016トリムカップ第8回女子選抜フットサル関東大会

2月6日、7日 大田原市県北体育館他

1回戦 千葉県 1-1 埼玉県 (3PK2)

※優勝した東京都と準優勝の千葉県が本大会へ出場する

インフォメーション

●JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル in 埼玉スタジアム

1月31日に埼玉スタジアム第3グラウンドにて、キッズフェスティバルが開催されました。69チーム、807名もの子どもたちが一生懸命にボールを追いかけていました。この中の一人でも多くの子どもたちがスポーツの楽しさ、さらにはサッカーの面白さを知り、小学校に上がった後サッカーを楽しんでくれることを願っています。越谷西高校サッカー部の皆さん、お手伝いをしていただき、ありがとうございました。



●JFAレディースフェスティバル2015 in 埼玉スタジアム

2月21日、埼玉スタジアム第4グラウンドにて、レディースフェスティバルが開催されました。高校生から一般まで30名の参加がありました。

した。午前中は木原梢さん、北本綾子さん、矢野喬子さんという元浦和レッズレディースの皆さんによるサッカークリニックを行い、午後は交流戦で楽しんでもらいました。参加者からは「また参加したい」という声が多く聞かれました。継続していく普及事業ですので、多くの女性の皆さんの参加をお待ちしています。



●「シーズン開幕前研修会」開催

審判委員会では、3月5日にシーズン開幕前研修会を開催しました。競技規則テストから始まり、各担当者からのプレゼンテーションなど、2016年シーズンを前にした確認が行われました。なお、審判委員会ではレフェリートレセンを行っています。どなたでも無料でご参加いただけて事前のお申込み等も不要です。ぜひ多くの審判員、インストラクターの方のご参加をお待ちしております。日程につきましては、公式ウェブサイトでご確認ください。

編集後記

年度末の多忙な時期ですが、サッカー界もシーズン前に慌ただしさが増えています。特に埼玉では3月24日、29日と立て続けに「サムライブルー」が挑むワールドカップ予選があり、落ち着かない日々が続いています。そんな中、「なでしこジャパン」がリオデジャネイロ五輪のアジア地区予選で敗れるという波乱がありました。間違いなく、日本の女子は世界のトップレベルなのですが、だからといって必ずしも世界大会に出場できるものではないということを思い知らされました。フットサルの日本代表もワールドカップ出場を逃しました。日本だけでなく、アジアも世界も進化し続けています。連続して出場し続けることがいかに困難で、

かつすごいことを誰もが痛感しているのではないのでしょうか。さて、浦和レッズがACLに参加しています。Jリーグと平行してアジアの強豪チームと戦っています。レッズを見ていると、常に他クラブよりも一歩先に行かなければならないという使命感を担っているように感じます。日本を代表するクラブですから、当たり前といえば当たり前ですが「世界と戦うには」という意識は、プロの世界だけでなくアマチュアの皆さんにも育成年代の指導者にも学ぶべきものが多いと思います。皆さん、忙しいとは思いますが、埼玉で「世界」を意識した戦いを見ようじゃないですか。ワールドカップ予選、ACLにいらしてください。(荒川)